

2026

1月

新講座

# 仏教における 人と知のネットワーク

## 昔のお坊さんはどう勉強したのか ～経典はどう訳されたのか～

## ◆受講日◆

指定月曜15:30～17:00

## ◆受講料◆

9,900円（税込・3回分）

## ◆講師◆

名古屋大学 大学院人文学研究科 准教授

崔 境眞（ちえ きょんじん）

名古屋大学 高等研究院

大学院人文学研究科 YLC特任助教

李 乃琦（り ないき）

名古屋大学 大学院人文学研究科 特任准教授

郭 佳寧（かく かねい）

協力：名古屋大学

学術研究・産学官連携推進本部

インドで生まれた仏教は、サンスクリット語で記され、中国で漢訳され、日本へと伝わりました。その旅路を支えたのは、文字と格闘し、解釈を重ね、教えを次世代に託していったお坊さんたちの知の営みでした。

「人と知のネットワーク」としての仏教をテーマに、それぞれの専門的視点から仏教知識の伝播と展開の姿をひもときます。

**※裏面のカリキュラムもご覧ください。**

詳細は下記フリーダイヤルまでお問い合わせ下さい。

※ 受講料には維持管理費が含まれています。 ※ 一部講座の受講料には音楽著作権使用料が含まれています。

※ 内容・日程は変更になる場合がございます。ご了承下さい。

※ 講座により募集締切日が異なりますので、お問い合わせ下さい。

※ お申し込みの人数によっては開講中止となる場合もございます。予めご了承下さい。

中日文化センターへ  
初めてご入会される方は、  
別途登録料 550 円（税込）が  
必要です。

# 2026年2～3月 カリキュラム

2月2日 担当：崔 境眞

「ヒマラヤを超えるネットワーク—チベット仏教をつくった人たち」

チベットにおける仏教文化は、8世紀から13世紀にかけてインド仏教から受けた影響によって形づくられました。その約500年間に繰り広げられた伝来と定着の物語は、インドとチベットを往復する「人と知のネットワーク」に他なりません。現在まで続くチベット仏教の土台を創り上げたインド・チベット人僧侶たちと、彼らが残した学問仏教の伝統についてお話しします。



3月2日 担当：李 乃琦

「仏教と国語辞書—日本語辞書の始まり」

日本で最も古い国語辞書はいつ、どのように編まれたのでしょうか。五十音図の由来や、最古のいろは歌が記された文献は何でしょうか。これらの問いの背景には、仏教との深い関わりがあります。現代の国語辞書が生まれる以前、古代の人々がどこで、誰のために、どのような目的で辞書を編纂したのかを、具体例を交えながら解説します。



3月30日 担当：郭 佳寧

「日本仏教における『学び』のかたち

—お坊さんはどうやって教えを学び、伝えてきたのか」

日本に伝来した仏教は、信仰の対象であると同時に「学ぶべき知」としても受け入れられてきました。では、昔のお坊さんたちは、どのように仏教を学び、修め、後世へと伝えていったのでしょうか？ 朝鮮半島、中国を経て伝わった仏教の「学び」の系譜をたどりながら、日本の寺院における知の伝達の実態を紹介します。また、中世の学問寺院である大須観音を取り上げ、教科書の調達など、学びの場としての寺院のあり方を具体的に解説します。

